

1 なぜ精神活動に関わる句動詞を取り上げるのか

この本では、例えば「衣服」や「書くこと」(第13章)のような特定の意味グループに関わる句動詞、あるいは動詞 get にまつわるさまざまな意味を取り上げてきました。これらのグループのいくつか、またはグループ内の個々の単語は、かなり具体的で物理的な行動に関わるものであると考えることができます。

ですから、この章では、もう一方の領域である「思考」すなわち**精神的な活動の観点**から句動詞を整理してみたいと思います。私はこれらの句動詞をどのように分類すればよいのか、かなり長い時間をかけて考えました。つまり、学習者がこれらの思考の句動詞を理解し、覚え、使用するのに役立つ方法は何か…。

2 「ブルームの分類法」とは

みなさんは「ブルームの分類法」をご存知でしょうか。

最近、私は東京都文京区にある小石川植物園⁽¹⁾を訪れ、「ニュートンのリンゴ」⁽²⁾について学びながら、ニュートンがリンゴが落下するさま(あるいは、それが頭に当たったりしたこと)を見てから自論を展開し、それが太陽を周る惑星の運動を説明できることを示すに至るまで、ニュートンの脳の中で何が起こっていたのかを考え始めました。

【注】1. 正式名称は「東京大学大学院理学系研究科附属植物園」。植物学の教育・研究を目的とする東京大学の教育実習施設

2. ニュートンが万有引力の法則を発見するきっかけになったと伝えられるリンゴの木の枝を接木したもの

ひょっとしたら、ニュートンの頭の中では次のようなことが起こったのではないのでしょうか。

リンゴが落ちたのに気づいた

→ なぜ下に落ちたのか、上に落ちたのではなく

→ どれだけ速く落ちたのか疑問に思った

→ そのことについて考えた

→ インスピレーションを得た

→ 理論を発展させた……などと

日本では一般にそれほど知られていないかもしれませんが、このように思考の過程を深めていく場合に用いられる便利な教育モデルがあります。海外、特にアメリカでは教師の多くが知っており、教員養成のときに実際に取り組まれることや、教室で教える際に採用されることもあります。それが「ブルームの分類法」(Bloom's taxonomy)として知られているものです。

これは技術を人間が習得するときの、人間の発達段階と、各段階における学習目標を示したものです。いわば認知の階層構造であり、階層の上位に位置する項目は、より「高度な」または「難しい」、すなわち、より多くの頭脳を必要とするものです。先のニュートンを例にとると、リンゴの落下に気づくことは理論を発展させることよりも「認知レベルが低い」と言えます。

この章では、「ブルームの分類法」に目を向け、この分類法を使って「思考の句動詞」を階層化して分類してみます。

ニュートンの例を句動詞に当てはめれば、階層のより高いレベルで使用される句動詞は、より「難しい」または「高度な」句動詞であり、より複雑な問題について話すために用いることができます。

このように、この分類法を思考の句動詞に適用すると、句動詞を整理する方法が得られ、これらの動詞を記憶して使用するのに役立ちます。